

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサブライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲武の家		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	平成30年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2376200172-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2376200172-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
聞き取り調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間部に位置し地域とそこに暮らす方々との結びつきが強く深い。入居者がこれまで築いてこられた地域資源との繋がりをいつまでも持ち続けられるように努めている。来館される地元の全ての方々が昔より入居者様と個人的な関係を持たれお話をされている。また外に出たちょっとした機会にも方々よりお声を掛けて頂いている現状である。認知症の方と特別視せず取り巻く周囲の環境がほんの少し手を差し延べ、ほんの少しの理解があれば地域の一人としていつまでも暮らしていける事を発信する役割を強く感じている。本年度は父兄、地区の方々が多く集まれた小学校の発表会で意見を述べる機会も頂けた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がホーム玄関入口に掲示されており常に職員が目にし意識出来るようになっている。「人を尊ぶ事を忘れずに行動する」という絶対的な指針となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治区の方々の協力もあり祭りの山車の通過ルートにホームを加えて頂き太鼓演舞も披露して頂いた。地元の小学生の来館や地域の方々との合同救命講習を今年も開催することが出来た。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの来館を小学生の年間カリキュラムの中に位置付けてもらい入居者様と触れ合い共に時間を過ごしてもらった。保護者や地区の方が集まる発表会の場で小学生と共に認知症の理解について意見を述べる事が出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	フォーマル、インフォーマルな立場と視点で様々な意見を頂ける貴重な時間となっている。活用出来る制度やサービスの情報も収集し施設の取り組みに役立てている。認知症カフェへの参加も今年より新たに始めた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員、地区社会福祉協議会、包括支援センターとも連絡を密に常に最新の情報を得られるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必須の研修項目として毎年必ず研修を行っている。また本年度より身体的拘束適正化検討委員会を設置し拘束がもたらす負の連鎖を考え業務に反映されるように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も毎年必ず実施している。今年は特に重点を置いたテーマとして各々が意見を出し虐待について考え話し合った。些細で小さな行動や言葉を見過ごさない環境作りに努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設での勉強会を開催し基本的な制度の内容と概要を学ぶことが出来た。制度の活用により入居者様の権利を擁護することも可能である事が認知された。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より説明を行い不安や疑問点が解消された事を確認の上で同意、契約をして頂いている。制度の変更等があった場合も個別に説明を行い理解と納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全入居者の御家族様に向けて職員が手紙を書き近況や状態を伝えている。また御家族様の来館時には積極的に関わりを持ち話のしやすい環境を作り努めている。外部評価での御家族様の意見についても検討を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する研修時や、リーダーミーティング等において個人、ユニット毎の意見や困り事を挙げ解決に繋げるよう努めている。また本部直通の情報室ホットラインなるものがありあらゆる悩みや不満が相談できる体制となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得や研修の修了が給与に反映される仕組みとなっている。各自の努力や向上心が推奨される環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマを掲げ毎月研修を行い個々の力のレベルアップを図っている。病院主催の研修会にも出席し介護のみならず医療的な分野においても知識の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々での研修参加等以外は外部同業者との交流は持っていない現状である。グループ内施設での関係は密に保たれている。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より本人の近い位置に立ち意見や想いが生活に反映されるように心掛けている。言葉の表出にのみ注目せず、表情やしぐさなどからもが想いくみ取れるように意識を持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	望んで見える姿、生活を共有しサービスの提案を行っている。現状のみにとらわれず今後の予測を踏まえた相談が可能となるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った経緯とその時の御本人様、御家族様の想いや気持ちに配慮することを重要視している。出来ない事ではなく出来る事に目を向けたサービス導入を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の入れ替わりがほとんどなく毎日同じ顔が見られる環境である。一線を越える事の無い様に意識は持ちながらも疑似家族としての信頼関係が構築できる様に務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事にもなるべく御家族様に関りを持って頂けるように心掛けている。年2回の家族会も恒例化しており多数の御参加を頂いている。御本人様、御家族様、施設の全員で楽しめる内容となるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室や理容室、食材の配達や診療の医師、来館されるボランティアの方々のはほぼ全員が地元の方である。また新たに認知症カフェへの参加もしておりこれまで持っておられた社会資源との繋がりを大事にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性を把握し配席等も思案している。一方で独立した人間同士の社会生活の一面であることも念頭に置き全てに干渉するのではなく必要性に応じた対応を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりについては明確に決めがないのが現状である。相談があった際はグループ経営の利点を活かし幅広い選択肢をもった提案を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から表出されない、出来ない意向を汲み取れるように意識している。カンファレンスや介護記録等を用いて情報の共有にも努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイス、アセスメント等の各シートの作成や直接の会話の中で断片的な情報に肉付けが出来るように心掛けている。また各々が誇りに思っている情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や好み、出来る事ややってみたい事を個々に把握できるように努めている。裁縫、調理、草むしり、畑仕事、雪かき等様々な事に参加され長年の経験を活かし職員への指導もして頂いた。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には御本人様もカンファレンスには御出席いただき想いが直接プランに反映されるように努めている。定期的なモニタリングの評価を踏まえ御家族様とも連絡を密にし共通の認識を持って支援内容を決定、実行している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録の記入、通読を通し日々の様子や状態の変化に留意している。変化を認めた場合は詳細記録を個別に作成しニーズの変化の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地区ならではの伝統や習慣を大切にしながら今までやってこられた事が途切れないように支援している。朴葉寿司作り、柏餅作り、五平餅作り、干し柿作り、梅干し作り、からすみ作り等皆で大騒ぎしながら行った。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の御厚意もありホーム敷地内にバスの停留所を設置して頂いている。バスを利用し馴染みのある風景をドライブしたり外食に出掛けたりもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元にある2医院が協力医として定期診療、往診も行ってくださっている。入居者様のほとんどが以前よりのかかりつけ医となっており信頼も厚く、医師がその方に対し持たれる情報も多い。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も勤務しており医療的な視点からのアドバイスが得られるようになってきている。介護職との関係も良好で何でも相談しやすい環境となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院、施設、御家族様の三者で情報が共有できるように努めている。三者の視点それぞれでの不安点を解消し再び安心して生活が送れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りに関して御家族様とも入居の際にお話をさせていただき同意を得ている。医師とも相談し申請を終え、終の棲家としての枠割が果たせる体制となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防団の協力もあり毎年救命講習、応急手当指導を行って頂いている。本年度は実際に現場で活用する機会もあり講習がおおいに役立ち有用性を再認識した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画の作成を新たに行いすべきことの明確化を図った。11月には消防署との合同訓練も決定しており更なる対応力の強化に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	画一的な対応にならないように常に心掛けている。また一人を個と考えるだけでなく時、場所、場合の要素を含めた総合的な尊重がなされるように留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常を通し何でも言いやすい関係作りに努めている。性格や好みも考慮した選択肢を提案し自己決定を促せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々のペースで好きな事をして過ごせるように配慮している。散歩、裁縫、塗り絵、居室での昼寝等自由で穏やかな時間を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元の美容室、理容室の方に来館して頂き好みの髪形にカットして頂いている。また身に着ける服も御本人様の趣味や好みでなるべく自身で選んで頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	五平餅や朴葉寿司等今まで生活の一部であったといえるメニューも取り入れている。五平餅は全ての工程を施設で行っており準備段階より入居者様にも参加していただき張り切った姿を見せていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を個々で把握し記録している。既往歴や現況で特別な摂取が必要な場合は御本人様にも説明し食事がストレスになってしまわないよう留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの持つ重要性を職員は認識している。毎食後個々の状態に応じたケアを行っている。定期的な入れ歯の洗浄も行い口腔内の清潔を意識している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン(時間、回数、量)を掴み無理の無い誘導が出来るように心掛けている。また個々のADLにも配慮しポータブルトイレの使用を取り入れたり排泄の自立に向けた視点も持っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にチェック表を作成、記録し職員が毎日目を通してしている。排便のリズムや現在の状態を把握し対応している。便秘対策の一環として毎日ヨーグルトの提供も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度は全員が入浴出来る体制となっている。入浴前にはバイタルチェックを行い安全面にも配慮している。また状態によってはシャワー浴や清拭を行い皆が気持ちよく過ごせるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動や精神状態の平穏が安眠に繋がることを職員は理解している。一斉消灯等は行っておらず本人のペースに合わせて休息することが可能となっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルが作成されており既往歴、処方箋等が閲覧できるようになっている。セッティングから服用まで何度もチェックする体制となっており誤薬防止の意識も高い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物置、食器拭き等今まで担ってきた役割を継続していただく事で社会の一員としての張り合いを持って頂いている。コーヒーや紅茶等今までの楽しみも継続できるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域バス等を利用して花見や紅葉ドライブに毎年出掛けている。また今年度は天候のいい日に屋外に出てお弁当を食べる等の新たな試みを行い好評を得た。年々地域の方々の理解と協力もあり外出しやすい環境にもなってきている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の観点もあり基本的には金銭は施設の管理となっている。欲しい物や要るものがある時は御家族様とも相談し一緒に買い物に出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話を使用している。届いた荷物や手紙はすぐに御本人様にお渡ししている。今年はこちらより手紙を出したいという要望もあり協力させて頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時、イベント時の写真が常に掲示してあり御家族様や職員との会話のきっかけにもなっている。各ユニット毎に塗り絵や貼り絵、書道の作品等思い思いの作品も掲示してあり温かみのある空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係や各々のパーソナルエリアを意識した配席になっている。ソファーや掘り炬燵もあり自由に移動し自由な時間を過ごしていただけになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒やテーブル、写真や神棚等愛着や思い入れのある品々を持ち込んでいただきロケーションダメージの軽減に努めている。安全面での配慮はあるが配置や飾りつけにも制約を設けず今までと変わらない生活を送って頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館完全バリアフリーの空間となっており安全と自由な行動が確保されている。トイレや自室はもちろん、屋外やユニット間の移動も盛んに行われている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲武の家		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	平成30年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2376200172-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2376200172-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間部に位置し地域とそこに暮らす方々との結びつきが強く深い。入居者がこれまで築いてこられた地域資源との繋がりをいつまでも持ち続けられるように努めている。来館される地元の全ての方々が昔より入居者様と個人的な関係を持たれお話をされている。また外に出たちょっとした機会にも方々よりお声を掛けて頂いている現状である。認知症の方と特別視せず取り巻く周囲の環境がほんの少し手を差し延べ、ほんの少しの理解があれば地域の一人としていつまでも暮らしていける事を発信する役割を強く感じている。本年度は父兄、地区の方々が多く集まれた小学校の発表会で意見を述べる機会も頂けた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に常に掲示されており一人一人が意識を持てるようになっている。理念に乗っ取りサービスの質、満足度の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地区の行事等への参加を心掛けている。また散歩等で外に出た場合も挨拶や会話の機会を大事にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な立場や年齢層に来館頂ける機会がある。特別ではなく少しの理解と援助があればいつまでも地域の一員であり続けられる事を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの現状を伝え出来ることが少しでも増やせるように意見、提案を頂いている。今年度より認知症カフェにも毎回参加出来るようになった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席者、介護相談員等に実状に合わせた相談を行っている。会議や委員会にも出席し近い関係性を維持できるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケースの実例を挙げ考え方、対処の幅を広げられるように努めている。多様な対応の選択肢を持ち安易に行動しないように意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	匿名のアンケート等を実施し自分自身を客観的に評価出来る機会を設けている。小さな傷やあざにも気を払い原因が疎かにされる事のないように気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会を行った。ニーズの多様化を職員が認識し必要に応じた提案が行えるように日々学んでいかなければならないことを実感している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な事は契約書に明示されており説明、同意のプロセスを重要視している。不安や疑問が払拭された後の契約を第一と考えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年2回の家族会の開催等関わりを持てる機会を提供している。本部直通の相談窓口の電話番号も常に掲示されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度はミーティングを行い個人、ユニットごとに意見が述べられる機会がある。本部直通の相談窓口も設置されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的な研修の参加や資格の取得が奨励される環境になっている。各自の努力が給与に反映される仕組みとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマに沿った研修を実施している。社外研修の受講にも制約はないが人員の不足もあり活用できていない現状がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での関わりはあるが外部同業者との交流は持っていない。視野を広げる機会ともなりえるので検討すべき課題である。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段よりの様子観察を重要視しちょっとした変化に気付けるように心掛けている。普段の生活を通して想いに触れ、職員間で情報を共有出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より御本人、御家族の想いや意向を聞いたり感じたり出来るようにしている。両者の意見を尊重したサービスの提供を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要とされる対応はもちろんの事、その後予想される状況にも目を向けて頂ける様に努めている。主治医等の意見も取り入れたサービスの提供を提案し安心して生活して頂ける様に意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	想いや考え方、性格や生活歴等一人一人の違いを受け止め目線を合わせた交流が持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より生活の中での様子や体調の変化についても伝え相談するようにしている。また病院受診等でもなるべく御家族が携わって頂ける様にお声掛けをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の知り合いの方が面会に来られるケースも増えてきている。地区のお祭り、認知症カフェにも参加させて頂き交流の場が提供されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係に配慮した対応を心掛けている。職員が仲立ちを行い皆が楽しめるような会話やレクリエーションも行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の取り決めは特に行ってはいないが相談や問い合わせがあれば快く受け付けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ちょっとした会話や日常の中のしぐさや表情、態度からでも想いを感じられるように努めている。日々がアセスメントである意識を持っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメントシートの情報はもとより日常を通してそれらを肉付けしていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	やりたいことや好きなことを画一化せず無理強いてしまわないように注意している。有する力を分析し新たな行動を提案していけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングの実施を行い目に見える課題にのみとらわれず想いや気持ちの変遷にも気を配っている。御本人、御家族、職員間で方向性を共有しプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	目標に沿った支援実施の可否、またその際の個々の様子を介護記録に毎日残している。職員は必ず目を通し新たなニーズの見落としが無いように留意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態の多様化もあり協力医との関係も密になっている。緊急時には医師の往診を受けられる体制である。認知症カフェへの参加等新たなサービスの機会も増えつつある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな自然の中で季節を感じ、時期に応じた企画も持っている。外食やドライブにもユニット単位で出かけており場所の選定にもこれまで繋がりがあった社旗資源との交流という視点も持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	山間部で近くに大きな病院はないが協力医による定期的な訪問診療や緊急時の往診もして頂き安心して生活が送れる環境となっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も勤務しており医療的な面での助言や相談が可能となっている。専門性の協働でより安心した生活の提供を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には御家族、看護師、相談員とも連絡を密にしニーズの把握に努め安心してホームに戻って頂く体制となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に話し合いを行い看取りに関しても説明を行っている。出来る事、出来ないことを明確にしたうえで御本人、御家族の希望に添えるよう心掛けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署の協力もあり毎年救命講習を開催して頂いている。実際のケースにも照らし合わせながら知識と技術を身に付けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画の作成を行い有事の行動が明確化された。定期的な訓練も行っており迅速かつ的確な行動が取れるように努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経験則による決めつけや思い込みが無いように気を配っている。日々傾聴するという意識を持ち個々の思いを把握できるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話や表情よりも本当の想いの把握に努めている。積極的に関わりを持ち自己決定の意思表示がしやすい環境作りにも気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	したいこと、楽しく感じられることを大事にしている。各々のリズム、ペースで自由に生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地元の理容師、美容師に来館して頂いている。更衣の際は職員と一緒に楽しみながら服を選ばれる利用者様も多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	五平餅、朴葉寿司、からすみ等昔より馴染みの深いメニューも提供している。提供形態にも配慮しながら皆で楽しみながら食べることを第一に考えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量や適量を個々に把握している。食事時の様子観察も行い個々の状態に合った形態での提供を行っている。毎月の体重測定も行い変化に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの持つ意義を職員は理解している。毎食後個々の状態に合わせたケアを実施している。また入れ歯の消毒も定期的に行い常に口腔内の清潔が保持されるように意識している。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活のリズムの中で声掛けや誘導を行いトイレでの排泄が可能となるように意識している。声にならない所作にも注意を払っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にチェック表を作成し排便、排尿の有無だけでなく量やリズムも把握するように努めている。また水分摂取の促しやヨーグルトの提供等便秘防止の対策も日頃より考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1度は入浴の機会を提供している。意思確認を行い入浴前にはバイタルチェックを行い安全な入浴を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な運動や精神的な安定が安眠に繋がる事を理解している。個々のリズムや生活習慣にあわせ休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や現在の状態を確認しながら服用薬への理解を深めるようにしている。セッティングから服薬まで何重のものチェックを体制を取り誤薬の防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、後片付け等グループホームならではの協同作業を大切にしている。楽しみや役割を持ち張り合いのある生活が送って頂ける様に働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	豊かな自然の中を散歩することを生活の一部に取り入れている。花見、紅葉ドライブ等恒例の行事も皆様の楽しみとなっている。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の観点からも金銭は基本的に施設の管理となっている。個々の希望がある場合は買い物と一緒に掛けたりもしている。金銭の流れは必ず記録に残し御家族様の承諾も得るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って使用して頂いている。手紙のやり取りを行われる方、携帯電話を個人で使用しておられる方も見える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは毎日掃除、消毒を行い快適に過ごせる空間となっている。行事の写真、習字や塗り絵の掲示等生活感と温かみのある空間になるように気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や人間関係を把握しトラブルの防止に努めている。テーブル、ソファ、こたつ等あり自由に移動できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗やはし等細かな物までなるべく以前より使用されたものをお持ちいただけるようにお声掛けをしている。居室内に於いても持ち込み品や配置についても制約は設けていない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーの空間となっており自由な移動が可能である。自室やトイレ、他ユニットや屋外等にも自らの意思で移動されている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲武の家		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	平成30年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2376200172-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2376200172-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間部に位置し地域とそこに暮らす方々との結びつきが強く深い。入居者様がこれまで築いてこられた地域資源との繋がりをいつまでも持ち続けられるように努めている。来館される地元の全ての方々が昔より入居者様と個人的な関係を持たれお話をされている。また外に出たちょっとした機会にも方々よりお声を掛けて頂いている現状である。認知症の方と特別視せず取り巻く周囲の環境がほんの少し手を差し延べ、ほんの少しの理解があれば地域の一人としていつまでも暮らしていける事を発信する役割を強く感じている。本年度は父兄、地区の方々が多く集まれた小学校の発表会で意見を述べる機会も頂けた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目指す理念がホーム内に提示してあり職員が常に意識出来る環境となっている。会議等でも取り上げ理念の持つ意義・重要性への認識を深め日々のケアへ反映されるように心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自自区の方の配慮もあり、秋祭りの際はホームを山車の通過ルートにして下さり太鼓の演舞も披露して頂いた。また、小中学生の来館や地元の幼児を持つ方との合同の救命講習も恒例となり、年々地域に身近な存在となりつつある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元ボランティアの方や、地元小学校等積極的に来館を受け入れホームの現状を伝えている。また実際に同じ時間を過ごして頂くことで、認知症の方々への理解を深め、二次的な情報の発信源になっていただけるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組みや現状について様々な起点より意見評価を頂き、今後の運営に活かせるように努めている。また貴重な情報収集の場となっており、新たな取り組みを生み出す機会にもなっている。今年は認知症カフェへの参加も出来るようになった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員との情報交換、地域包括センターとも連絡を密にし常に情報を得られるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必須の研修項目として毎年必ず研修を行っている。身体拘束禁止への意識は高く、後に拘束に繋がりがかねない案件については未然に職員間で話し合いを行い、入居者様の個を大切にすることを確認しあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しての研修も毎年必ず開催されている。職員が知識と意識を持ち、些細なことでもそのまま見過ごされる事が無いような環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を開催し基本的な制度のないよう概念を学ぶことが出来た。必要に応じては入居者様の権利を擁護することも可能であることが認知された。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より十分な説明を行い、同意の上で契約をして頂いている。不安な点や疑問点はその都度、説明し理解納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員全員が気軽に話しかけ、相談できる存在であるように意識している。支援の方向性やサービス内容の決定についても率直な想いや願望を反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する研修時や、リーダーミーティング等において個人、ユニット毎の問題を解決に繋げるように努めている。また本部にも相談窓口が設置されており、自由に使用できるようにになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修終了や資格の取得が給料に反映される仕組みになっている。各自の努力や向上心が評価される環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを掲げたけんしゅうを施設にて開催している。また市主催の研修会や病院主催の勉強会に参加し、得られた情報は全職員が共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当グループ内での関係は保たれている。個々での研修参加等以外は外部同業者との交流は持っていない現状がある。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常日頃の生活の中で何気ない会話のやり取り、表情にも意識を向けている。個々の想いをくみ取り、安心してせいかつを送っていただけるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の現状をありのままに伝えるだけでなく、御家族様の想いも反映されるようなサービスの提供を行っている。今後予測される対応についても話し合いを持てるような関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状態だけでなく、入居に至った過程、御家族様の近況にも目を向け、総合的なニーズに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の特性や性格を理解し出来ることは積極的に参加して頂くことで集団内での役割を持っていただけるよう意識している。日頃より気さくに声を掛け共に暮らしをする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族会が恒例となっており、毎回多数の御家族様に出席して頂いている。施設と御家族様との距離を縮め楽しんで頂けるような内容になるように企画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出には特に制約を設けておらず、地元の方々も気軽に来館されている。施設に関わる、理容店、医師、ボランティアさんも地元の方がほとんどで、馴染みの方との関係が継続できている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団に於ける人間関係に配慮した対応に心掛けている。楽しいレクリエーション、会話が弾むように週2回の合同体操、レクを楽しんで頂き入居者様同士のやり取りも干渉せず、必要性以外は見守るようにしている。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の関わりについては決めは特に設けていないが、相談があったときにはグループ経営の利点を活かし提案を行うことが出来る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日常生活の中から想いをくみ取り会話が少ない方は態度やしぐさで想いをくみ取るように意識している。介護記録・申し送り帳等で情報の共有を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・アセスメント等で情報確認をもとに信頼関係を深め、御本人が今までの人生、思いを語れるような環境を目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	好きなこと、出来る事、、やりたいことを個人から把握し出来る範囲内で取り組んで頂けるよう努めている。ぬり絵、パズル、季節の郷土料理等、職員と一緒に取り組んでくださっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の介護記録をもとに3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価を踏まえ共通の認識を持ち、御家族の希望も入れた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録記入、通読を通して些細な変化を見逃さない様留意している。変化があった場合、詳細記録を記入して、新たなニーズの把握や対応を協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地元のこだわり料理、朴葉寿司作り、五平餅作り、柏餅作り、からすみ作り等、入居者の方々と一緒に作り、柔軟な対応が取れるように心掛けている。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな自然を生かし、ドライブや外出に出かけ、四季を感じていただいている。地元の御好意もあり、施設敷地内に予約バスの停留所を設置して下さっている。時には利用して出かけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	艇的な訪問診療もあり気軽になんでも相談できる関係となっている。緊急時には、時間外でも連絡が取れ、時には駆け付けて下さり、安心した生活を送っていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も週1回勤務しており、医療的な事案も相談することが出来る。健康管理を行い、未然に病気やけがが防止できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院、御家族、施設で連絡を密に行い情報を共有するとともに、状況の把握に努め、新たなニーズに対応したプランを作成し安心安全な生活を提供できるよ努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、御本人御家族の想いとホームにとって可能な事を踏まえて入居の際に同意を頂いている。医師とも相談し申請を終えて、体制が整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力もあり毎年救命講習、応急手当指導を行っている。AEDの使用法、胸部圧迫訓練も行い緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設が土砂災害危険区域にしていされておられ、避難確保計画の作成を新たに行い、すべきことの明確化を図った。今までの防災訓練に加えて、土砂災害時の避難訓練等も今後実施予定となる。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格やプライバシーを損ねないように職員全員が意識し、個人情報外部に漏らさないように徹底し厳守している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、希望や願望などの思いを決定できるように常に声を掛けたり、尋ねたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態や想いに配慮しながら声掛けし、散歩や一人ひとりの趣味など本人の想いを大切にする支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元美容師、理容師の定期的な来館があり髪をカットして頂いている。季節の変わり目には御家族にも連絡し季節に合った服装を選び、過ごせるように意識している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎年嗜好調査を行い利用者様の意見が反映されるようになってきている。昼食は職員、利用者様が一緒に食事を摂り楽しい時間となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取可能な食事形態を個々で見極め提供するようにしている。摂取量も毎日記録してあり栄養の不足が無いように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状態に応じた口腔ケアを実施している。義歯の方に関しては定期的に消毒を行い口腔内の清潔の保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けや誘導により排泄のリズムを作ってもらえるよう支援している。安易なおむつ使用はせずなるべくトイレでの排泄が可能となるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日個々の排便状況を確認し服薬のコントロール等を行っている。ヨーグルトの摂取や腹部のマッサージも毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を基本としている。本人の意思を尊重し無理強いしてしまわないように注意している。また入浴前にはバイタルのチェックを行い安全を確保している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転等に注意しながらも無理なく過ごせるように心掛けている。日中の適度な運動を重視し夜間の安眠に繋がるように意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について目的や用法についての理解を深めるようにしている。症状に変化があった場合は主治医にすぐ相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物干し、洗濯物畳み等今まで担って来られた役割を持ち続けられるように支援している。散歩や買い物、個々の希望に沿った支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元のおくよせ雛の見学や花見、紅葉ドライブにも毎年出かけている。ユニットごとに外食に出かけたり天気の良い日は屋外の散歩や外気浴も日課となっている。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の管理は施設で行っている。買いたいもののある方や買い物に出かけたという希望がある時は職員と外出したりもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話も使用して頂いている。届いた荷物や手紙に関してもすぐ御本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は毎日清掃、消毒を行っており常に清潔が保たれている。季節に応じた写真や塗り絵等の作品に囲まれゆったりとした時間が過ごせるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係にも配慮した座席の決定を行っている。自然と皆が一体となり楽しさを共有できるような仲立ちを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に愛着や馴染みのあるものを持参頂ける様をお願いしている。持ち込み品に制約を設けず自身の好みや習慣で快適な空間にして頂いている。環境の変化によるダメージも職員は理解している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館がバリアフリーになっており安全と自由な行動が両立されている。制約を無くすことでホームを自宅のように感じ生活を送って頂ける様に努めている。		